

関東地方整備局
国営常陸海浜公園事務所

四季折々の花で彩られた国営公園を
公園づくりのエキスパートが支える

初夏の丘一面を淡いブルーで彩るネモフィラや、鮮やかな紅葉を見せてくれるコキア（ホウキグサ）など、四季を通じた花々の彩りで全国に知られる国営ひたち海浜公園。今回は、この全国有数の花の名所を支える、陰の力持ちにスポットライトを当て、国営公園の運営の現場を紹介します。





旧陸軍飛行場(接收後、米軍射爆撃場)の跡地に建設されたひたち海浜公園。西口ゲートは本公園の特性である開放感を「飛翔」というイメージで表現した。

年間200万人以上が訪れる 太平洋を望む地に造られた 広大な国営公園

国営ひたち海浜公園は、茨城県ひたちなか市の海岸沿いに位置し、太平洋を望む約350ヘクタールの広大な面積を誇る国営の都市公園です。昭和48年に米軍から返還された水戸対地射爆撃場跡地の平和利用の一環として、平成3年に開園し、その後も順次整備を進め、現



広大な敷地を誇る園内の移動には、定期的に園内周遊コース(1周約40分)を循環しているシーサイドトレインが便利

在は主に南側の約200ヘクタールが公園として利用されています。茨城県内をはじめ千葉県や東京都など関東一円だけでなく、日本各地やアジアなど海外からも多くの人が来園します。平成27年度と平成28年度の年間入園者数が2年連続で200万人を超えたことから、その人気の高さがかがえます。

開園直後からこの公園での勤務経験があり、現在は調査設計課長を務める奈良憲孝は、「ネモフィラが人気の『みはらしの丘』は建設発生土を使用し、繰り返した土壌改良を行いながら、整備を進めてきた人造の丘です。平成3年に『空と海と緑が友達 爽やか健康体験』をコンセプトに開園して以来、植物や造園の専門家集団であるひたち公園管理センター



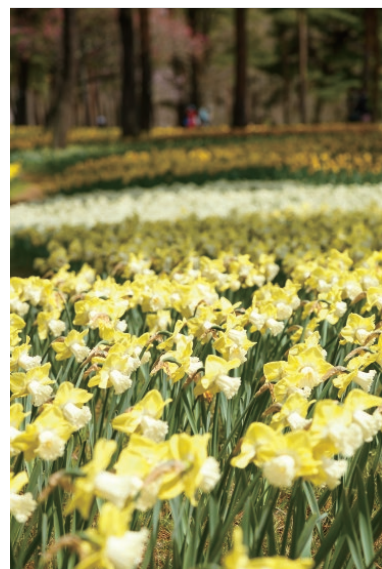
ひたち海浜公園が誇る絶景「みはらしの丘」。まるで空と一体になった丘一面のネモフィラ

公園づくりのコンセプトは 四季を通じた花の名所作り

のスタッフと共に、皆さんに楽しんでいただける現在の姿を造り上げてきました」と振り返ります。

ひたち海浜公園の人気の秘密は、何といつても四季を通じて楽しめる花々です。3月のスイセンから始まり菜の花やチューリップ、そして5月になると『みはらしの丘』一帯を覆うネモフィラは、毎年テレビなどでも紹介され、多くのファンを呼んでいます。さらには夏のバラやラベンダー、秋になればこの公園で品種改良されたコキアの群れが鮮やかな紅葉で目を楽しませてくれます。四季を通じて色鮮やかな花々を雄大なスケー

「茨城県には、梅で名高い水戸の偕楽園がありますが、ここの梅が終わった後も、季節を通じてお客様に来ていただける観光名所を作りたいと考えました。そこで県や地元の方々の声を聞きながら、春から秋まで途切れなく楽しんでいただけるような花と緑の組み合わせを選び、育てることで、現在のようになつてきました」(奈良)



ルで見せる演出は、公園関係者の間でも注目を集め、見学に訪れる専門家も少なくありません。

ひたち海浜公園がこつした花作りには、ひととき力を注いだことには、茨城県を代表する公園にふさわしい個性と、地域に貢献できる集客力を目指すというコンセプトが背景にありました。

花シーズンに備えて

日頃から通路や排水設備を整備

美しい花園の舞台裏には、公園づくりの担当者による見えない工夫があるこ

取材時はスイセンが見ごろに。1ヘクタールにさまざまな種類のスイセンが100万本も咲きほこる。



とをご存知でしょうか。

工務課工務係長の佐々木勝也は、「年間200万人を超えるお客様が来園されるため、ネモフィラのある『みはらしの丘』のように人が多く集まる場所の導線をどう確保するかを常に考えています」と語ります。この丘には5月のゴールデン

ウィーク頃に、大勢のお客様さまが満開の花を楽しむために訪れます。その際にお客さまが、風景を楽しみながらも安全かつスムーズに移動できる散策コースをどのように整備するかが、佐々木たち工務担当者がもっとも工夫を求められるポイントの一つです。

公園では、出来上がった建造物や工作物を、周囲の風景にバランスよく「なじませるか」が重要であり、その場所に合わせて造ることが重要です。例えば、園路の方が花より目立っては、風景のバランスが崩れてしまいます。

花のシーズン以外にも、工務担当者にはやらなければならない業務がたくさんあります。日頃から地形や土地の特徴を把握し、管理センターのスタッフと話し合いながら、いざシーズンになった時に美しい花が咲かせられるよう、土壌や排水設備を整備しておかなくてはなりません。

ドローンを上空に飛ばして土壌を観察し、水はけの良い区画を発見した場合は排水用の地下水路を設置するなど、来園者の目に触れない場所の整備も行っています。

広大な敷地の有効活用に向けて 今後のさまざまな可能性を探る

ひたち海浜公園にはまだ約4割の未開園エリアがあります。奈良はこうしたエリアの整備と、有効活用をこれからも引き続き推進していきたいと考えています。「園内には貴重植物の植生もあるので、それらの保全を行いつつ、来園者の方々に楽しんでいただける企画を考えたい。管理センターのスタッフやボランティアの意見を聞きながら、この土地に合ったものを探し、皆さまに楽しんでいただける公園づくりを進めたいと思う

ています」(奈良)

一方で、年間200万人を超えるお客様の安全を守る防災対策も怠っていません。さらに、近年、急増する海外からの観光客対応など新しい課題が次々と出てきますが「あえて特別な制限を設けずに、さまざまな角度から、いろいろな可能性を探っていきたい」と奈良は語ります。

二人とも、ひたち海浜公園だからこそできるさまざまな可能性を求め、また、そのための環境をつくることに大きな使命を持って日々の業務を行っています。



海側には砂丘エリア。ハーブ園や太平洋を望むガラスハウスなど花園とはまた違った落ち着いた趣。



奈良が関わったサイレントギャラリー（砂丘エリア）。静かな空間で木々の音色、鳥のさえずりを聴き、心が静かになる時間を楽しんで欲しいという。

気軽に公園を楽しんでもらえる アイデアや仕組みづくりを進めたい

調査設計課長 奈良憲孝

高校時代に山岳部に所属していた経験から、山や自然に関する仕事がしたいと希望して入省しました。以来、約30年にわたって各地の国営公園の整備や企画運営を手掛けてきました。中でも、ひたち海浜公園は、今回で3度目の勤務で、開園直後から繰り返し赴任したこともあり、まさにホームグラウンドともいべき職場です。

趣味のアウトドアに加え、社会人になつてからは約2年間にわたって演劇を学びました。演劇や舞台美術など、五感を通じて何かを伝える空間表現的にもの考えるのが好きで、こうした発想は現



在の仕事にも生かされており、園内に植える花を選ぶ際に香りのする種類を選んだり、風の音や鳥のさえずりも考慮したりするなど、視覚以外にも訴えて楽しんでいただける工夫を凝らしています。

また、公園の運営や設計を取りまとめる責任者として、来園者の声に耳を傾け会話を交わす機会を、多く持つように心掛けています。お客様の何気ない会話で「この花、いいよね」といった声を耳にすると、やはりこの仕事をしていて良かったという喜びが湧いてきます。

当公園には、15歳以上なら年間4100円（65歳以上なら2100円）で何度でも入園できる「年間パスポート」があります。このパスポートを利用し、ウォーキングやディスクゴルフなどの軽スポーツを毎日楽しまれる方がいます。

さまざまな方々に、公園を憩いの場だけでなく、健康増進や「癒やし」の場としても活用して欲しいと願っています。

今年の観光シーズンに向けて

「笑顔で帰ってもらえる」公園づくりを

工務課工務係長 佐々木勝也

公園の仕事は長年の夢で、平成28年度にひたち海浜公園に着任しました。待望の公園担当になって最初の仕事は、「みはらしの丘」周辺の園路整備の仕事でした。ところが、ここで今までの仕事とは大きく勝手が違うことに気づきました。

長年担当してきた工事では、図面通りに正確に造ることが当然とされてきましたが、公園では「現地になじませる」ということが重視されるので、最初のうちは非常にとまどいました。

砂丘エリアの散策路を計画する際には、実際に自分で現地を歩き、傾斜などを確認し、来園者が歩きやすいルートを選べました。

今では、こうした公園ならではの勘どころをつかみ、園内のさまざまな施設の整備や補修に積極的に取り組んでいます。アスレチック施



設の補修工事では、工事期間には使えなかった遊具などが一新され、さっそく訪れた大勢の家族連れが楽しむ様子に喜びを感じました。私自身4人の子どもの父親として、休日にはわが子とひたち海浜公園を訪れて遊ぶこともあります。

これから夏に向けて繁忙期を迎えますが、楽しみに来園された方々全員に笑顔でお帰りがいただけるような公園を目指していきます。



工務課の業務は工事発注が中心でデスクワークが多いという



公園内には遊具や施設が。こうした遊具のメンテナンスも佐々木の業務。